

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600717	事業の開始年月日	平成16年3月1日		
		指定年月日	平成16年3月1日		
法人名	社会福祉法人 幸済会				
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの園				
所在地	(〒240-0041) 横浜市保土ヶ谷区東川島町14-2				
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名	
			通い定員	名	
			宿泊定員	名	
		☒ 認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名
			ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和8年2月15日		評価結果 市町村受理日		令和8年7月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・施設内でアニマルセラピーを行っており、犬とご利用者が触れ合うことでご利用者の癒しに繋がったり、利用者通しのコミュニケーションの向上にも繋がっている。
- ・近接する診療所の医師である法人理事長が主治医となり、毎日の健康状態報告と体調変化時の相談・速やかな受診・往診体制ができている。
- ・地域との交流を大事にしており、町内の定期清掃や行事へのご利用者との参加、職員による小学生下校見守り活動の実施。避難訓練時は地域の方合同での実施。
- ・季節の行事や外出レク・法人合同行事への参加やボランティアによるレク。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和8年3月6日	評価機関 評価決定日	令和8年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- 【事業所概要】
当事業所は相鉄線「西谷」駅から10分程の住宅街に位置する木造2階建て、2ユニットのグループホームである。認知症対応型通所介護事業所と短期入所生活介護事業所を併設し、隣接して同法人の小規模多機能型居宅事業所がある。また、道を挟んだ向かい側に協力医療機関の診療所がある。事業所ではセラピー犬を飼っている。
- 【法人との様々な連携を通じた支援】
事業所の母体である社会福祉法人は、特別養護老人ホームや地域ケアプラザを運営しており、秋祭りなどの行事や法定研修、災害時の応援協力などで連携を図っている。また、法人理事長が事業所の主治医であるため、毎日、利用者の健康状態を報告して、体調変化時の速やかな受診につなげている。
- 【馴染みの人や場との関係継続の支援】
フラダンス同好会や国政選挙などの同行で知人が来所している。利用者は、家族と一時帰宅したり美容院に出かけたりしている。スケッチブックに絵を描く、行事の際にノンアルコールビールを嗜む、新聞を読むなど、利用者各々の従前からの趣味や生活習慣の継続支援をしている。事業所で飼育しているセラピー犬が、利用者にとって癒しの存在となっている。また、犬を飼っていた利用者が昔を思い出すことに一役を担っている。併設のデイサービスやショートステイを利用していた方が多数入所しており、事業所が馴染みの場所にもなっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	かわしまの園
ユニット名	いちよう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人運営理念である「温かい心・冷たい頭・優れた技能」を事業所でもあてはめて共有している	法人の理念「温かい心・冷たい頭・優れた技能」を事業所の理念としている。理念を玄関と事務所に掲示し、共有している。5年以上の介護経験がある職員が多数在籍し、チームワーク良くサービスを提供している。管理者は常に優しい気持ちで利用者に接することや利用者各々の色々な考え方に対し、臨機応変に対応することを職員に伝え理念の実現に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域からお知らせをもらい、地域行事(夏祭りや運動会)や定期清掃・町内会合等に参加している	川島第四町内会に加入し、町内会の掲示板や運営推進会議の参加者から情報を得て、地域の運動会に参加している。地域清掃や町内会の会合にも参加し地域の方々と交流している。また週1回、小学校低学年の下校時刻に合わせて、見守り活動をしている。「ミュージック脳トレ」や「訪問美容レク」のボランティアが来所し利用者と交流している。「訪問美容レク」で撮影した利用者の写真は、家族から好評を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方の相談を受け助言することもある。必要に応じてサービスの利用も進めている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて意見交換を行い、運営に活かしている	運営推進会議は、町内会の副会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、家族、事業所の職員をメンバーとし、奇数月に開催している。開催の都度、事前に数名の家族に声をかけ参加を促している。参加者から「庭の木の枝が伸びている」などの声があがり、対応しているが、運営に関する特段の意見は上がっていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録の送付、生活保護費を受給しているご利用者がおり、定期的に区役所に相談する機会がある	保土ヶ谷区高齢・障害支援課に、運営推進会議の議事録送付をしている。また、必要時に電話で問い合わせをしている。生活支援課とは、生活保護費を受給している利用者が複数名入居しており、障害者手帳の更新やストーマの給付申請の相談をするなどして連携している。地域包括支援センター主導で行われる「オレンジカフェ」には、継続して参加する意向である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会の開催・研修の実施。玄関・2階の施錠は安全確保の為継続、利用者が外出・別階に行くときは職員付き添いのもと実施	身体拘束等の適正化のための指針を作成し、定期的に委員会や研修を行っている。椅子から降りられないように、テーブルに体をぴったり付ける事は身体拘束に当たるなどの確認をしている。勉強会に参加できなかった職員には、資料を配布し共有している。帰宅願望がある利用者には、願望が生じる時間帯などを見極め、玄関まで職員が同行するなど、利用者に応じた有効な対応策を職員間で共有し、身体拘束をしないケアに努めている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の職員研修の開催、デイ・ショートも併設運営している為接遇には気をつけている	虐待防止のための指針を作成し、定期的に委員会や研修を行っている。管理者は、チェックリストの結果を確認し、職員が疲労やストレスから不適切なケアをしていないか注意を払っている。管理者は、夜勤帯でケアの対応が重なる場面や、一時的に不穏な方がいる時など、状況を慎重に見極め、虐待に繋がる事が無いよう、注視している。虐待が疑われる状況を見かけた時は、報告義務があることを職員間で共有している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修で学び、必要であれば市町村とも連携し活用している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・年一回の更新時に行う		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の家族アンケート・面会時や行事の際にご家族の要望をうかがっている	毎月の請求書送付時に手紙と個々の写真を添えて、利用者の様子を家族などに伝えている。現在、家族との面会は、時間帯を定め、15分間を限度とし実施している。超過した時は、30分を目安に声をかけている。家族の要望は、面会時や電話連絡時に聞いている。また、運営推進会議に出席した家族からも聞き取っている。家族からは「居室に生花を飾っても良いか」などの問い合わせが主で、運営に関する特段の意見は上がっていない。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に社員・フロアミーティングを行っている。他管理者が随時職員と面談や、コミュニケーションの中で意見や要望を聞いている	管理者は、フロアミーティングや職員との日常の関わりの中で、物品の購入や勤務に関することなどの希望や意見を聞いている。職員から申し出があった電子レンジの買い替えを実現している。非常勤職員には、年1回、契約更新時に管理者が個人面談を行い、目標や悩みなどを聞き取っている。法人が主催する夏祭りや忘年会に参加した際に職員は、法人の代表者と会話する機会がある。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から法人本部に随時運営状況や職員の勤務状況の報告を行っている。賞与は社員のみだが、忘年会は非常勤職員も参加可能な為、そういった場で法人代表と会話する機会もあり、モチベーションにつながっている	人事考課に伴う雇用形態の変更などで職員のモチベーションの向上につなげている。職員専用のトイレや、横になって休めるソファを置いた休憩場所を設けている。また、有給休暇のほか、6日間の特別休暇が付与される。ほかにも公休の希望を考慮したシフト編成など、法人は、福利厚生を含めた就業環境の整備に努めている。特定技能実習生や外国にルーツのある職員の働き方などにも配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて外部研修の受講を進めたり、介護福祉士試験の援助・法人内外の研修に参加	資格取得や研修受講のための支援制度がある。介護福祉士の資格取得研修の受験費用は、1回分に限り、法人が負担している。また、勤務扱いで交通費も支給される。概ね月1回、法定研修を中心とした法人主催の勉強会が行なわれ、受講した職員が、資料を配布して職員間で共有し理解を深めている。新入職員には、習熟度に合わせて、1か月を目安にOJTを行ない育成している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会や研修・職員交換研修への参加		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面談、すぐに入居ではなく、デイやショートを段階的に利用していただき、日々の関わりの中でご本人・ご家族との信頼関係をつくってきている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の十分な面談・開始後の定期的な近況や状態報告の実施		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談アセスメントの段階で、施設入所の時期の検討や他サービスの利用も選択肢のひとつとしてお話している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いや利用者同士の関わり・犬の世話・嚥下体操の司会などできる範囲で役割をもって生活してもらう		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一時帰宅やご家族との外出の実施・ご本人の好きな物の差し入れをしていただく		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との電話や年賀状のやりとり、ご友人との面会などの交流支援の実施	フラダンス同好会の仲間や国政選挙などの投票所への同行目的の友人が来所している。家族、知人との電話や手紙の取り次ぎ支援をしている。家族と一時帰宅したり美容院に出かけたりする方がいる。スケッチブックに絵を描く、行事の際にノンアルコールビールを嗜む、新聞を読むなど、利用者各々の従前からの趣味や生活習慣の継続支援をしている。事業所で飼育しているセラピー犬は、利用者にとって癒しの存在となっている。また犬を飼っていた利用者が昔を思い出すことの一役を担っている。併設のデイサービスやショートステイに通っていた方が多数入所しており、事業所が馴染みの場所にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ってご利用者同士の交流を促したり、共同で家事手伝いをしてもらうように促している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自施設から特養や病院に移った後も、ご家族への連絡や先方への情報提供に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出や買い物、食べたい物やしたいことなどを職員が聞き取り支援している	利用者の思いや意向は、日常のコミュニケーションの中で聞き取っている。「甘いものが食べたい」「買い物したい」「カラオケが好き」など、把握した意向を実現している。長年入居している方のADLが下がり、意向の把握が困難な場合は、これまでの生活を参考に、表情や元気がないなどの変化を見逃さないように努め、推察し、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前のご家族との面談や、ご本人から聞き取りしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始前のご家族との面談や、ご本人から聞き取りしている。また、申し送りノートやミーティングで職員間で共有している			
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向をふまえ、主治医や理学療法士のアドバイスを聞きながら、定期的に作成している	概ね、長期目標1年、短期目標6か月の介護計画を作成している。全職員が記載するモニタリング評価シートを基に、介護計画作成担当者がアセスメントし、介護計画を更新している。その際は、家族や医療関係者などの意向も反映している。状態に変化があればその都度見直している。本人の「皆と仲良く楽しく過ごしたい」との意向を反映して、介護計画を作成し、デイサービスの参加者との交流などを実現している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送りノートにて行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前のデイサービス利用やショートステイへの対応、通院同行やお墓参り同行などをおこなっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコンビニや商店街でお買い物、地域ケアプラザ等での行事の参加・作品展示など		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との緊密な情報共有を行い、必要に応じて専門医への受診の実施	月1回、利用者全員が職員同行の下、事業所の斜め向かいにある協力医療機関（内科）を訪れ、受診している。協力医には、毎日、利用者の状態を報告している。協力医以外の専門医への受診も職員が同行している。その際は協力医の紹介状を介して症状などを伝えている。受診結果は、協力医に届き事業所と共有している。歯科医と歯科衛生士が定期的に来所し、個別契約した方の口腔ケアなどを行っている。看護師は、週1回来所し、健康観察などを行っている。必要時には、協力医に報告し処置の指示を仰いでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の利用者の状況報告と、訪問看護の直接相談の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の相談員と情報交換や、退院後の対応や生活の仕方の情報交換を行っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族との面談で説明し、ご本人の状態に合わせて随時話し合いを行っている	契約時に「看取りに関する指針」で事業所の方針を説明し、「終末期に関する意思確認書」で利用者・家族の意向を確認している。終末期と医師が判断した際は、医師の意向を家族などに伝え、事業所でできることなどを話し合い再確認している。事業所から療養型の病院などへ移る方が多く、今年度は看取り介護の実績はない。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の実施		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震想定避難訓練を実施。洪水時の訓練も今後実施予定	隣接する同法人の事業所と合同で、日中想定 of 総合訓練を運営推進会議と同日に行い、会議の参加者が訓練にも参加している。今年度は、2回目の避難訓練（夜間想定）を3月18日に予定している。水害警戒区域に指定されており、水害時は垂直避難、火災時は火元から離れ助けを待つことを職員間で共有している。BCP（事業継続計画）を作成し感染症などの研修を行っている。非常食、日用品などの備蓄品を整えている。	災害時にすぐ持ち出せるよう懐中電灯などを収納棚に準備しています。収納棚の転倒防止対策を行うと共に、保管場所の確保や備蓄品を取り出し易く整理、収納することを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスマナーや個人情報保護の研修を行い、相手に深いを与えない対応を心がけている	利用者の呼称は、名字に「さん」付けを基本としている。法人主催の認知症ケアなどの研修に参加した職員による伝達研修や資料回覧で共有し、学びを深めている。管理者は、更衣介助などで何事も利用者のペースに合わせて支援することを職員に伝えている。請求書を送る際に同封する写真は、プライバシーを損ねることのないよう集合写真ではなく個別の写真のみとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で職員がご本人の希望を聞きながら対応している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのような場面でもご利用者の意向を伺い、本人のペースに合わせて過ごしていただく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕の身だしなみはご自身で行えることは行っていていただく、洋服と一緒に購入しに行くなどの支援		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食後の片づけと一緒にに行ったり、特別食や誕生日のケーキ、お菓子作りなど一緒に作ったり、飾りつけすることで楽しみにつなげている	ご飯と汁物は職員が調理している。副食は、専門業者が献立し、栄養管理された食品を湯煎し提供している。献立には、季節行事のおせち料理なども組み込まれている。利用者は、食後の下膳やお菓子作りなどを行ない、食事に関わっている。利用者の咀嚼状況により、刻み食やムース食を提供している。行事の際には、オードブルやピザ、お弁当などを注文し、食事を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫や、食事水分量が少ない方に関しては補食を用意して提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがい・入れ歯洗浄の実施、うがいや難しい方は口腔ウェットシートの活用		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的に日中はトイレのご案内し、必要に応じて職員2名介助を行っている	「排泄表」で排泄パターンを把握し、定時誘導や個々の排泄サイクルに合わせて声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。布パンツを使用している方の失禁回数が増えた際は、すぐにパッドやリハビリパンツに変更することはせず、注意深く見守り検討している。転倒予防の目的で夜間ポータブルトイレを使用する方がいる。的確な声かけによる支援の結果、パッドの使用枚数が減った方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時のみでなく、こまめな水分補給の声掛け・提供、体操レク時に便秘解消に効果がある体操の実施・便秘になりやすい方へはヨーグルト等を提供し、なるべく薬に頼らないように便秘解消を行う		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	確実に週に2回入浴対応をするように、入浴曜日を決めている。体調や行事等で対応できない場合は、別日に入浴するよう申し送る	浴槽の湯はかけ流しで、汚れがあれば入れ替えている。入浴を好まない方は、声かけのタイミングを見計らい「背中に薬を塗りたいので」と脱衣所に誘導し、入浴を促している。浴槽を跨げなくなったタイミングで、シャワー浴への変更を検討している。入浴時間に配慮しながら長湯の方の希望に応じ、入浴を楽しめるようにしている。季節のゆず湯や入浴剤を使用して、香りを楽しみながら入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室には入所時にベッド・タンス等を持ち込まれ、他にもご自身が使い慣れている物を持ち込んでいただき、安心して過ごせるよう居室環境を作っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員にて薬の管理を行い、服薬後の本人の観察、主治医・看護師へのこまめな報告の実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲での役割作り、ご本人の好きなこと、犬の世話や編み物・塗り絵・歌などを個々で行う		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	自販機やコンビニまでの外出支援・近所の散歩や花見、行事の参加・ご家族との外出	気候の良い時節には、散歩に出かけている。車いすを使用している方は、駐車場などで外気浴をして気分転換している。車を使用し花見や紅葉狩りに出かけている。同法人の特別養護老人ホームが主催するイチゴ狩りや秋祭りに多数が参加している。利用者は、家族の協力の下、外食や買い物、美容院、墓参りなどに出かけている。その際は、排泄のリズムなどを伝えスムーズに外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方には定期的にお小遣いをお渡しし、ご自身でやりくりされている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人への電話や年賀状のやりとりなど		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけ、玄関前のプランターで花の飼育	居間に空気清浄機を備えている。また、エアコンで温度管理をし、利用者が心地よく過ごせるようにしており、現在、光や風向きなどで特に不快を申し出る方はいない。回廊式廊下の壁際数か所にソファを置いて、利用者がひとりになれるたり、横になったり、歩行の途中にひと休みできるように配慮している。季節を感じられるように階段の壁に桜やチューリップなどの貼り絵を飾っている。また、玄関先で季節の花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルーム内にソファを設置し、椅子とは違った座り心地でゆったり過ごす時間や、お一人になれる配置		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具やリネンの使用、家族の写真を飾るなど	居室にはクローゼット、照明、防炎カーテン、エアコンを備えている。入所時に環境の変化を最小限に抑えられるよう、使い慣れたものを持ち込むことを推奨している。居室の雰囲気は様々で、利用者は思い思いに、使い慣れたベッドや寝具、整理ダンス、テレビを置き、ぬいぐるみや写真などの馴染みの品や思い出の品を飾っている。飛散防止の窓ガラスが施され、転倒のリスクのある方には、空間センサーやナースコール、ポータブルトイレを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃から階段を利用することで、下肢筋力の維持をしたり、回廊式の廊下を歩くことで運動にもなり、自立した生活に繋がっている		

事業所名	かわしまの園
ユニット名	けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
		○	3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人運営理念である「温かい心・冷たい頭・優れた技能」を事業所でもあてはめて共有している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域からお知らせをもらい、地域行事(夏祭りや運動会)や定期清掃・町内会合等に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方の相談を受け助言することもある。必要に応じてサービスの利用も進めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて意見交換を行い、運営に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録の送付、生活保護費を受給しているご利用者がおり、定期的に区役所に相談する機会がある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会の開催・研修の実施。玄関・2階の施錠は安全確保の為継続、利用者が外出・別階に行くときは職員付き添いのもと実施		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の職員研修の開催、デイ・ショートも併設運営している為接遇には気をつけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修で学び、必要であれば市町村とも連携し活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・年一回の更新時に行う		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の家族アンケート・面会時や行事の際にご家族の要望をうかがっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に社員・フロアミーティングを行っている。他管理者が随時職員と面談や、コミュニケーションの中で意見や要望を聞いている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から法人本部に随時運営状況や職員の勤務状況の報告を行っている。賞与は社員のみだが、忘年会は非常勤職員も参加可能な為、そういった場で法人代表と会話する機会もあり、モチベーションにつながっている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて外部研修の受講を進めたり、介護福祉士試験の援助・法人内外の研修に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会や研修・職員交換研修への参加		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面談、すぐに入居ではなく、デイやショートを段階的に利用していただき、日々の関わりの中でご本人・ご家族との信頼関係をつくってきている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の十分な面談・開始後の定期的な近況や状態報告の実施		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談アセスメントの段階で、施設入所の時期の検討や他サービスの利用も選択肢のひとつとしてお話している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いや利用者同士の関わり・犬の世話・嚥下体操の司会などできる範囲で役割をもって生活してもらう		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一時帰宅やご家族との外出の実施・ご本人の好きな物の差し入れをしていただく		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との電話や年賀状のやりとり、ご友人との面会などの交流支援の実施		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ってご利用者同士の交流を促したり、共同で家事手伝いをしてもらうように促している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自施設から特養や病院に移った後も、ご家族への連絡や先方への情報提供に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出や買い物、食べたい物やしたいことなどを職員が聞き取り支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前のご家族との面談や、ご本人から聞き取りしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始前のご家族との面談や、ご本人から聞き取りしている。また、申し送りノートやミーティングで職員間で共有している		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向をふまえ、主治医や理学療法士のアドバイスを聞きながら、定期的に作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送りノートにて行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前のデイサービス利用やショートステイへの対応、通院同行やお墓参り同行などをおこなっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコンビニや商店街でお買い物、地域ケアプラザ等での行事の参加・作品展示など		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との緊密な情報共有を行い、必要に応じて専門医への受診の実施		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の利用者の状況報告と、訪問看護の直接相談の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の相談員と情報交換や、退院後の対応や生活の仕方の情報交換を行っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族との面談で説明し、ご本人の状態に合わせて随時話し合いを行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の実施		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震想定避難訓練を実施。洪水時の訓練も今後実施予定		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスマナーや個人情報保護の研修を行い、相手に深いを与えない対応を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で職員がご本人の希望を聞きながら対応している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのような場面でもご利用者の意向を伺い、本人のペースに合わせて過ごしていただく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕の身だしなみはご自身で行えることは行っていていただく、洋服を一緒に購入しに行くなどの支援		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食後の片づけを一緒にに行ったり、特別食や誕生日のケーキ、お菓子作りなど一緒に作ったり、飾りつけすることで楽しみにつなげている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫や、食事水分量が少ない方に関しては補食を用意して提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがい・入れ歯洗浄の実施、うがいや難しい方は口腔ウェットシートの活用		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的に日中はトイレのご案内し、必要に応じて職員2名介助を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時のみでなく、こまめな水分補給の声掛け・提供、体操レク時に便秘解消に効果がある体操の実施・便秘になりやすい方へはヨーグルト等を提供し、なるべく薬に頼らないように便秘解消を行う		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	確実に週に2回入浴対応をするように、入浴曜日を決めている。体調や行事等で対応できない場合は、別日に入浴するよう申し送る		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室には入所時にベッド・タンス等を持ち込まれ、他にもご自身が使い慣れている物を持ち込んでいただき、安心して過ごせるよう居室環境を作っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員にて薬の管理を行い、服薬後の本人の観察、主治医・看護師へのこまめな報告の実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲での役割作り、ご本人の好きなこと、編み物・塗り絵・歌などを個々で行う。2階にいる犬に会いに行き、アニマルセラピーの実施		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自販機やコンビニまでの外出支援・近所の散歩や花見、行事の参加・ご家族との外出		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方には定期的にお小遣いをお渡しし、ご自身でやりくりされている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人への電話や年賀状のやりとりなど		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけ、玄関前のプランターで花の飼育		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルーム内にソファを設置し、椅子とは違った座り心地でゆったり過ごす時間や、お一人になれる配置		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具やリネンの使用、家族の写真を飾るなど		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃から階段を利用することで、下肢筋力の維持をしたり、回廊式の廊下を歩くことで運動にもなり、自立した生活に繋がっている		

目標達成計画

事業所名 高槻市グループホームのわらしの園

作成日 令和8年7月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	行事に参加や外出は行っているが、目標とする毎月外出ができていない。	毎月の外出のレクの中で、外出できる機会をいやす。	行事年間計画書と照らして作成する。	6ヶ月
2	35	収納場所が不足、備品を置く場所がない。 ~~洪水時の具体的な訓練ができていない。~~	備品を置く場所に取付け、不足する場所には収納棚を設置する。	中庭のスペースに物置の設置を行い、定期的に取付け場所を確認する。	6ヶ月
3	35	洪水時の具体的な訓練ができていない。	机上訓練のみでなく、実際に訓練を行う、対策（＝その場）を講ずる。	実際にわらしの園（本部）まで行く訓練を行い、近隣の里と話し合い、合同訓練として行う。	6ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。